



【朝の全校放送】

中村校長先生による朝の全校放送の話がありました。一年間のいじめ未然防止の取組の中で、今日の7月3日が最も重要視される日であり、いじめとは何か、命の尊さとは何か、生きるとは何かということを実際に考えることになっています。中村校長先生の話された内容は次の通りです。

- ・今から6年前の7月3日は、当時中学校3年生だった男子生徒の大切な命が失われた日であること。この日を「いじめについて考える日」とし、岐阜市のみんなで真剣にいじめや命について考える日となったこと。
- ・いじめは、どんな理由があっても絶対にしてはいけない。自分の周りで困っている人や泣いている人がいれば、友だちや先生、家族の方などに、そのことを伝えること。困っている人を放っておかない優しい人になってほしい。
- ・みんなには一人一人のよさがある。そのよさを認め合って、みんなの心が「ぽかぽか」「にっこり」、その心や笑顔が「ほっこり」につながることをわかってほしい。
- ・今日はいじめをしない＝人の命を大切にするという意味で、命についての話を聞くことを伝える。

中村校長先生のお話を受けて、各学級では、7月3日「いじめについて考える日」の意味を考え、今日の講話や授業に臨む姿勢づくりをしました。



朝の放送で話す

中村校長先生

【岐阜県総合医療センター新生児内科主任医長寺澤大祐さんの講話】

岐阜県総合医療センター新生児内科主任医長、寺澤大祐さんの講話「命の重さ～赤ちゃんたちから教えてもらったこと～」を全校一斉に聞きました。希望する保護者の方（120名ほど）も講話を聴きました。寺澤大祐さんは、重篤な赤ちゃんの集中治療を専門とする新生児内科の主任医長として、命が誕生する現場で、現在も重い病気や障害を抱えながらも懸命に生きようとする小さな命と向き合い続けています。その中で出会った赤ちゃんや支える家族の人たちが幾多の困難をも乗り越えていく姿、その尊い命を救うために懸命に努力する医療スタッフなど、さまざまな立場から話をされ、生まれて今日まで生きてきたことの価値を子どもたちに伝えたいという願いを込めて話されました。また、講話の最後には、「いのちの理由（さだまさし）」の歌に合わせて、寺澤大祐さんのとてもすてきなピアノ演奏が流れ、館内がとても優しく温かい雰囲気になりました。映し出される映像や写真、すてきなピアノ演奏に涙する子どもたちや保護者の方もいました。命の大切さについて、じっくり考えた時間となりました。

【講話の様子の写真】

